

## 1 農業農村整備事業における景観配慮の基本

### ◆ 農村景観とは

農村景観とは、地形、気候による地域独特の風土の下、継続的な農業生産活動により形作られた水田等の農地、水路・ため池等の農業水利施設、人々の生活の営みの場となる集落、雑木林・鎮守の森等により、歴史的・文化的な背景を基に形成された景観と定義されます。



舟川新地区(富山県朝日町)(あさひ舟川「春の四重奏」)提供：朝日町観光協会



津南地区(新潟県津南町)(結東の石垣田を活用したキャンドルイベント)提供：津南町

### ◆ 農業農村整備における景観配慮

農村景観の構成要素である農地・農業水利施設等の整備に当たっては、**景観の変化又は周辺景観に与える影響を踏まえ、良好な農村景観の形成に向けた景観配慮対策を検討し、事業計画に反映**することが求められます。

景観配慮対策の検討に当たっては、小型UAV(ドローン)による空撮も活用することで、広範な地域を対象とした景観情報の収集、整備対象施設の見え方等の三次元的な検討が可能となります。



上空から斜めに地上を俯瞰した空中写真



解説動画の公開リンク

「景観配慮対策における小型UAVの活用」解説動画

農業農村整備事業での景観配慮対策における小型UAVの活用にあたる基礎的な留意事項、注意点、活用方法などを解説した動画(令和元年度作成)を公開しています。

### ◆ 農村景観と地域づくり

インバウンド需要拡大及び魅力ある田舎暮らしへの期待の高まりもあり、農業・農村の景観・文化、農産物、人的交流などの各地域の特色を生かした地域活性化の取組が行われています。

また、多面的機能支払交付金の活動等においても、景観形成による地域づくりに貢献している例が見られ、**農業農村整備事業における景観配慮を通じ、農村景観が貴重な地域資源であることの認知を広げたり、地域景観の保全・形成に取り組む地域内外の住民等の輪を広げていく**ことも、景観配慮の取組の重要なポイントとなります。



白糸地区(静岡県富士宮市)富士山の裾野に広がる「平成棚田」

## 2 景観配慮の技術指針の位置づけと改定のポイント

### ◆ 農業農村整備事業における景観配慮の技術指針の位置づけ

景観配慮の検討は、地域景観の特性などの現況を把握する「調査」、整備対象施設の景観配慮方針を定める「計画」、具体的な景観配慮対策案を検討する「設計」、対策案を施設整備に反映する「施工」及び「維持管理」の各段階で行われます。

『農業農村整備事業における景観配慮の技術指針』は、農業農村整備事業における「環境との調和への配慮」の一環として、上記の各段階の検討を進めるための技術参考資料として、平成30年5月に策定されました。

### ◆ 「技術指針」改定の背景

策定から約7年が経過し、水路の安全対策の推進及びスマート農業の進展といった社会情勢の変化への対応、景観配慮を契機とした地域づくりの留意点、蓄積した取組事例等を技術指針に的確に反映させる必要があることから、技術指針の改定を行うこととしました。

### ◆ 改定のポイント

- ✓ 農業水利施設などの安全対策、スマート農業進展など **農業農村を取り巻く社会情勢の変化への対応**
- ✓ 景観配慮を **地域づくりにつなげる** ための留意点の整理
- ✓ ほ場整備(水田／畑)、農道、水路等の管理用道路の整備に係る景観配慮の **取組事例の紹介**

## (1) 農業農村を取り巻く社会情勢の変化への対応

### ◆ 景観配慮と安全対策【防護柵等の設置】

- 近年、農村地域の高齢化及び都市化・混住化に伴い、**水路への転落事故**の発生が増加するとともに、その危険性が増大。
- 地域住民等の通行量、転落した場合の水深等を考慮の上、**防護柵等の設置場所**を決定するとともに、**所定の強度も備える**必要。
- **防護柵等の形・色彩**といった視認性を確保した上で、周辺景観との調和にも配慮。



安全性と周辺景観両面に配慮した防護柵

### ◆ 木材等の自然素材の活用

- 木材などの自然素材は、経年変化により周辺になじみ、良好な景観形成を図る効果が期待。
- 一方で、十分な対策が為されず経年変化が進んだ場合には、周辺景観に違和感をもたらす可能性があるため、設置に当たっては素材の耐久性及び日焼けによる**経年変化を考慮し、防腐・防錆処理、紫外線対策等を行う**。
- **自然素材の活用**に当たっては、**適切な管理・更新による安全性及び景観配慮対策を総合的に勘案**することが肝要。



素材が経年劣化した看板

### ◆ スマート農業の進展と景観配慮

- 農業農村整備事業においては、ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用するスマート農業に対応した基盤整備の在り方も検討。
- 自動操舵トラクター、小型UAV（ドローン）、ラジコン草刈り機等の導入に当たり、これまで農村には無かった通信基地局などの設備の設置、法面の緩傾斜化等、スマート農業に対応した基盤整備が想定される。

## (2) 景観配慮を契機とした地域づくりの留意点

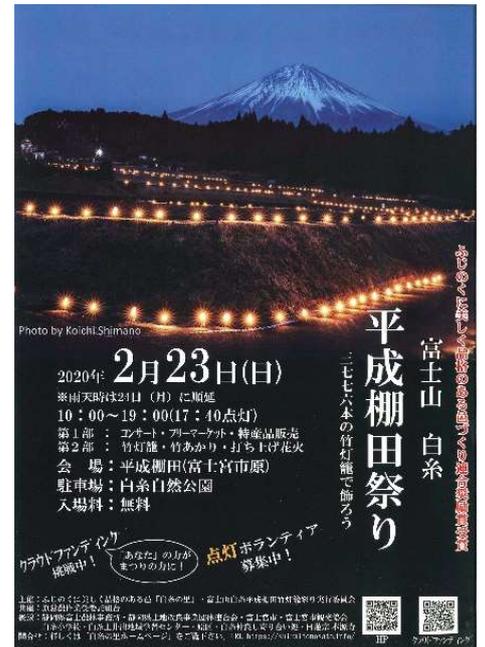
### ◆ 景観資源の価値を高める仕組み

- 景観を地域の資源として生かした幅広い取組が行われている一方、日常生活の延長として存在している地域景観を貴重な資源として認知していない地域住民も多い。
- 農業農村整備事業における景観配慮対策では、景観が地域活性化の取組に活用可能な資源であることの認知を広げ景観を生かした地域づくりの気運を高めることも重要。

#### 取組事例

白糸地区（静岡県富士宮市）では、地域住民による話し合いを経て、ほ場整備の実施に際し、地域の歴史を象徴する原川を親水整備する要請を行い、事業主体が石積み護岸を整備しました。

整備後には、地域の活動組織がほ場整備を行った傾斜農地を「平成棚田」と命名し、親水公園（石積み護岸用水路）と合わせて周遊するノルディックウォーキングイベントを企画運営、平成棚田での竹灯籠祭りも開催し、多くの来訪者をもたらす一大イベントとするなど、傾斜地に整備したほ場を地域の資源とした都市農村交流を促進しています。



景観配慮対策を通じた地域づくりを展開

### ◆ 多様な住民参加の促進

- 農地、農業水利施設等は多面的機能を有し、農村だけではなく都市住民のゆとりと安らぎの形成にも大きく貢献するなど、地域内外の住民が利害関係者(ステークホルダー)となる。
- 地域住民による景観形成活動に当たっては、多様な住民参加を促す観点からの検討を行うことも重要。
- このようなことを狙い、積極的なワークショップ、住民参加型直営施工等の取組の活用にも期待。

#### 取組事例

江合川地区（宮城県大崎市）では、幹線用水路改修に伴い住民参加型直営施工による遊歩道（管理用道路）脇の芝張りを通じ、地元有志が植栽した桜並木の地域資源としての価値が再認識され、桜並木の保全活動が促進。地域の結束も一層強くなりました。



住民参加型直営施工による芝張り



整備後の管理用道路

### (3) 景観配慮に係る参考事例

ほ場整備(水田／畑)、農道・水路等の管理用道路の整備に係る景観配慮事例を新たに紹介し、工種別の景観配慮事例を充実

#### ほ場整備(水田)

国営農地再編事業 由仁地区 (北海道由仁町)

水稻の品質低下を防ぐとともに地域のシンボルとなる防風林の整備に当たり、ワークショップ及び住民参加型直営施工を実施



◀住民参加による勉強会を通じ最適な樹種、配置計画を検討し防風林を植栽



▶地域のシンボルを創出するため住民参加型直営施工により防風林を植栽

#### ほ場整備(畑)

県営畑地帯総合整備事業 溜水・妙見地区 (長崎県雲仙市)

現場発生石材を活用し、隣接する石垣の段々畑(地域の景観資源)との景観的な調和を維持し、景観配慮の質的な効果を向上



▲整備後のほ場



◀現場発生石材を活用した法面擁壁



▶地区に隣接する地域の景観資源である段々畑

#### 農道整備

県営中山間地域総合整備事業 東祖谷地区 (徳島県三好市)

美しい原風景である屋敷地の石垣と里道を残すため、農道整備にあたり延長の縮小、路線変更、縦断勾配を修正



◀農道延長変更の概要



▶農道の路線計画変更の概要

#### 管理用道路

国営かんがい排水事業 大崎西部・江合川・大崎地区 (宮城県大崎市)

地域の要請を受け、水路の歴史的背景に配慮した改修と管理用道路の住民管理を促す仕組みづくりを実施



◀「農業用水としての機能」「親水空間としての機能」等に配慮し石畳を強調した歩道を整備



▲関係機関との協議により、管理用道路は関係市が財産管理を行うこととし、施設の直接的な利用者である地域住民を中心に「保全隊」を設立、地域による自主的な管理、土地改良区による施設を利用したイベント等を行う体制を構築